

【注意事項】

R20TS0472JJ0100
Rev.1.00
2019.09.16 号

CS+用 RL78 コード生成 (CS+ for CC),
CS+用 RL78 コード生成 (CS+ for CA,CX),
e² studio Code Generator プラグイン,
RL78 コード生成支援ツール AP4,
RL78 コード生成支援ツール Applilet3

概要

タイトルに記載している製品の使用上の注意事項を連絡します。

1. データ・フラッシュ・ライブラリを使用時の注意事項

1. データ・フラッシュ・ライブラリを使用時の注意事項

1.1 該当製品

- CS+用 RL78コード生成 V2.15.00 (CS+ for CC V6.01)以降
- CS+用 RL78コード生成 V2.15.00 (CS+ for CA,CX V4.01)以降
- Code Generatorプラグイン V2.10.0 (e² studio V6.2.0)以降
- AP4 for RL78 V1.15.00以降
- Applilet3 for RL78 V1.14.00以降

1.2 該当デバイス

- RL78ファミリ:
RL78/G11、RL78/G12、RL78/G13、RL78/G14、RL78/F12、RL78/F13、RL78F14、
RL78/F15、およびRL78/I1Eグループ

1.3 内容

「データ・フラッシュ」-「データ・フラッシュ・ライブラリの設定」で“使用する”を選択した場合、CPU 動作周波数およびフラッシュ書き換えモードの生成コードに誤りがあります。

R_FDL_Create 関数に CPU 動作周波数およびフラッシュ書き換えモードの設定コードが生成されますが、R_FDL_Open 関数の実行前に、CPU 動作周波数およびフラッシュ書き換えモードを設定した変数がスタートアップの RAM クリア処理でクリアされてしまいます。

そのため、CPU 動作周波数およびフラッシュ書き換えモードがデータ・フラッシュ・ライブラリへ正しく設定されず、データ・フラッシュの書き込みおよび読み込みが正しく動作しない場合があります。

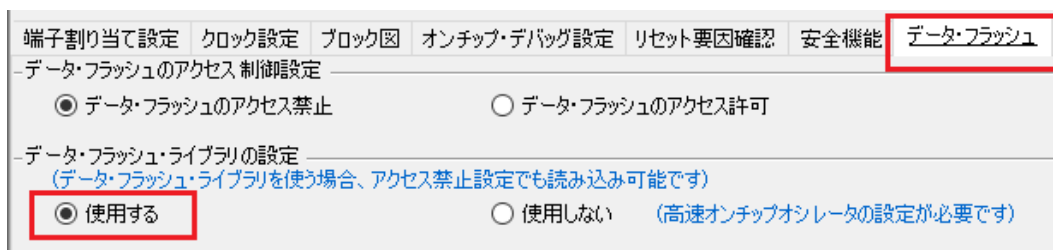


図 1 データ・フラッシュ・ライブラリの設定画面

1.4 回避策

R_FDL_Open 関数に CPU 動作周波数およびフラッシュ書き換えモードの設定コードを追加してください。

注意：再度コード生成を行うと修正前の状態に戻りますので、ソースファイルの修正はコード生成を行う度に実施してください。

- ・ ソースファイル：r_cg_pfdl.c
- ・ 修正する関数：void R_FDL_Open
- ・ 参照する関数：void R_FDL_Create

以下に、CPU の動作周波数が 32MHz、フラッシュ書き換えモードがフルスピード・モード時の場合の修正例を記載します。赤文字の部分が修正箇所です。

修正前：

```

/*****
* Function Name: R_FDL_Create
* Description  : This function initializes the flash data library.
* Arguments    : None
* Return Value : None
*****/
void R_FDL_Create(void)
{
    gFdlDesc.fx_MHz_u08 = _32_HOCO_CLOCK_MHz; /* コメント省略 */
    gFdlDesc.wide_voltage_mode_u08 = _FULL_SPEED_MODE; /* コメント省略 */
}

/*****
* Function Name: R_FDL_Open
* Description  : This function opens the RL78 data flash library.
* Arguments    : None
* Return Value : None
*****/
void R_FDL_Open(void)
{
    PFDL_Open(&gFdlDesc);
    gFdlStatus = 1;
}

```

修正後：

R_FDL_Create 関数内のすべてのコードを、R_FDL_Open 関数内にコピーしてください。

```

/*****
* Function Name: R_FDL_Create
* Description  : This function initializes the flash data library.
* Arguments    : None
* Return Value : None
*****/
void R_FDL_Create(void)
{
    gFdlDesc.fx_MHz_u08 = _32_HOCO_CLOCK_MHz; /* コメント省略 */
    gFdlDesc.wide_voltage_mode_u08 = _FULL_SPEED_MODE; /* コメント省略 */
}

/*****
* Function Name: R_FDL_Open
* Description  : This function opens the RL78 data flash library.
* Arguments    : None
* Return Value : None
*****/
void R_FDL_Open(void)
{
    gFdlDesc.fx_MHz_u08 = _32_HOCO_CLOCK_MHz; /* コメント省略 */
    gFdlDesc.wide_voltage_mode_u08 = _FULL_SPEED_MODE; /* コメント省略 */
    PFDL_Open(&gFdlDesc);
    gFdlStatus = 1;
}

```

1.5 恒久対策

次期バージョンで改修予定です。（2020年1月予定）

以上

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	Sep.16.19	-	新規発行

本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。

ニュース本文中の URL を予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

本社所在地

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 (豊洲フォレシア)

www.renesas.com

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。